

NZ産プロポリス含有成分が 抗コロナウイルス作用を示唆

産総研などの研究論文がアクセプト

国立研究開発法人産業技術研究所は、インド工科大学デリー校(IITD)との共同研究で、ニュージーランド産プロポリスに含まれる成分の「コヒー酸フェネチルエステル(CAPE)」が、新型コロナウイルス(COVID-19)を抑制する可能性を見出し、このほどその研究論文が「ジャーナルオブバイオモレキュラーストラクチャー&ダイナミクス」にアクセプトされた。

COVID-19をはじめとしたウイルスはメ

インプロテアーゼの働きによって増殖するが、同研究では、ニュージーランド産プロポリスに含まれるCAPEがメインプロテアーゼ酵素の活性を阻害し、増殖を抑制する可能性を窺見、「新型コロナウイルス感染症に対するいくつかの治療または予防的価値を提供する可能性がある」として、今後検討を深めていくとした。

シクロケム(東京都中央区、03-6262-1511)では、NZ産プロポリスに含まれてい

るCAPEを10%当たり30mg以上で焼結化した独自原料「NZCAPE30」について、γ-シクロデキストリン(γ-CD)で包接することによってCAPEの安定性を飛躍的に向上させることに成功。

「CAPE-γ-CD包接体」の機能性については今回の研究のほか、産総研との共同研究で抗がん作用を論文化。さらに、神経細胞の分化誘導を介した脳機能改善作用についても論文を投稿している。